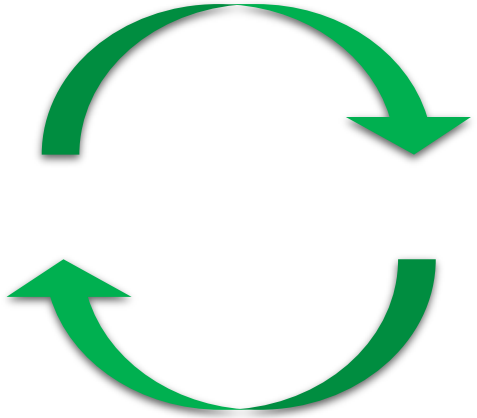
国際情勢の認識と日本外交の展望

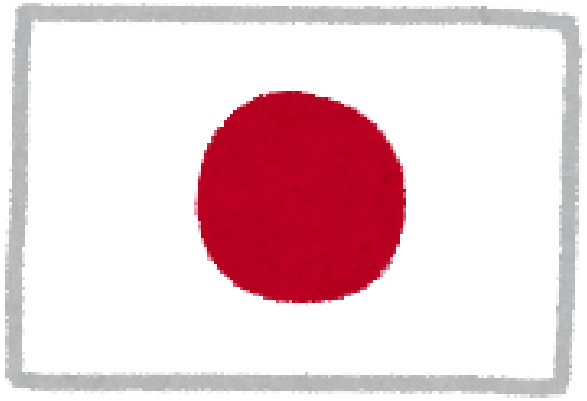
～世界を融和と協調へ導く～

2025年版　外務省

目次

1. 国際情勢の認識：今、世界で何が起きているのか
2. 日本外交の展望：それを受けて、日本はどのような外交を展開するのか





今、世界で何が起きているのか

日本はどのような外交を展開するのか

1. 国際情勢の認識

今、世界で何が起きているのか

1-1.「歴史の転換点」にある国際社会

冷戦の終結

冷戦後の世界の動き

- 安定した国際秩序のもと、国家間の格差が全体として縮まる ↔ 十分に恩恵を受けられない国々の存在、先進国内での格差の拡大
- 新興国・開発途上国の成長 → 発言力の増大、これまでの国際秩序に対する不満も
- 科学技術の急激な発達 → サイバーセキュリティや偽情報対策など、守るべき対象の幅が広がった
- 地球規模の課題は深刻化
  → 国や地域の協調が不可欠

変化や対立を経験しつつも、皆がルールを守って国際的な秩序を保つ努力をしてきた

ところが…

ロシアによるウクライナ侵略（２０２２年～）

1-1.「歴史の転換点」にある国際社会

ロシアによるウクライナ侵略の意味

- 世界の平和・安全を守る責任を与えられている大国の１つが、重大なルール違反を犯し、力で一方的に他の国を侵略
  ＝ 冷戦後、国際社会が協力して守ってきたものへの挑戦

＋

さらに…

- 中東情勢の悪化
  → どのような立場をとるかで、国際社会の対立関係は複雑に

- 新興国・開発途上国の成長
  → こうした国の影響力が増し、先進国が作ってきた秩序への不満も

歴史の転換点

これまでの秩序が脅かされていることが、誰の目にも明らかな状態に

1-2. 日本外交が直面する主な課題

① これまでの国際秩序に対する挑戦

② 国家間の力のバランスの変化

③ 経済安全保障と科学技術

1-2. 日本外交が直面する主な課題

① これまでの国際秩序に対する挑戦

- **2022年2月、ロシアによるウクライナ侵略の開始**

- 国際秩序の根幹を揺るがす暴挙。
- 武力行使の一般的禁止を含む国連憲章の諸原則へのあからさまな違反。
- 唯一の戦争被爆国として、ロシアによる核の威嚇は断じて受け入れられず、ましてやその使用はあってはならない。

→ **国際社会が長きにわたる努力と多くの犠牲の上に築き上げてきた国際秩序の根幹を揺るがす**

1-2. 日本外交が直面する主な課題

一層厳しさを増す東アジアの安全保障環境

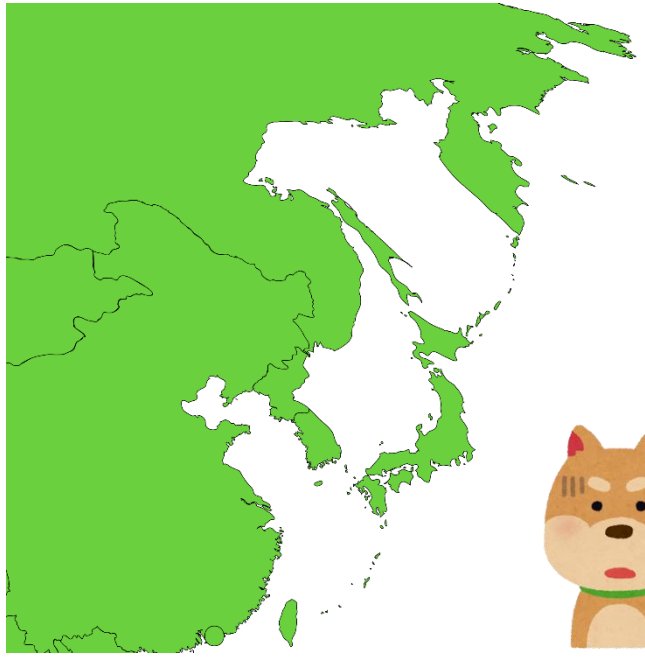
軍事面の協力が
進展

北朝鮮

弾道ミサイルの発射等、
核・ミサイル活動が進展

ロシア

ウクライナ侵略だけでなく、
日本周辺でも活発な軍事活動



中国

広範かつ急速に軍事力を増強、
日本周辺で軍事活動を継続・活発化

日本の位置する地域は、
安全とは言えないね・・・

1-2. 日本外交が直面する主な課題

一層厳しさを増す東アジアの安全保障環境

- ヨーロッパの状況は、インド太平洋地域の平和・安全ともつながっている

世界のどこかでルール破りが成功してしまえば、「破っていいんだ」と他の地域の安全もゆらぎかねない

中露共同飛行・航行

中国爆撃機及び情報収集機

ロシア爆撃機

写真提供：統合幕僚監部ホームページ

1-2. 日本外交が直面する主な課題

② 国家間の力のバランスの変化

- **存在感を増す新興国・開発途上国（「グローバル・サウス」とも呼ばれる）**
  → 立場や抱えている課題は様々。

- 既存のルールやシステムに対する不満

  →深刻さを増している多くの地球規模課題

  →2024年9月に国連総会で開催された未来サミットでは、
  安保理改革など、56の行動を記した「未来のための約束」を採択

Summit of the Future
Our Common Agenda

重要なのは…

価値観や利害の対立を乗り越える姿勢
相手の国が真に必要とする協力を実現するきめ細かな対応

1-2. 日本外交が直面する主な課題

② 国家間の力のバランスの変化

- **国連など、多国間での取組は難しい状況**

  → 国連の安全保障理事会が、ウクライナや中東情勢に対し、本来期待される役割を十分に果たしているとは言えず、安保理改革を含む国連の機能強化が必要

国際連合とは？

第二次世界大戦の終結後、人々が二度と戦争で苦しむことがないように作られた国際機関。なかでも**安全保障理事会は世界平和を守る主役の機関**とされており、限られたメンバーのみ参加できる。2025年は発足から80周年となるが、現在の国際社会の姿を適切に反映できていない部分も。

写真提供：UN photo

安全保障理事会

原則として、米・英・仏・中・露のうち一国でも反対すると議決ができない

1-2. 日本外交が直面する主な課題

③ 経済安全保障と科学技術

「グローバル化」とは？

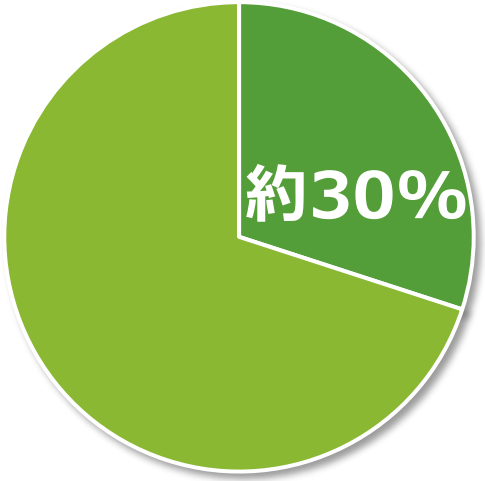
ヒト・モノ・カネの国境を越えた移動が活発になるとともに、貿易を通じた商品・サービスの取引や海外への投資が増えることによって、世界における経済的な結びつきが深まること。

→ **成長や繁栄というプラスの側面のみならず、脅威をももたらし得る**

- 紛争や感染症による輸出入への影響で、食料やエネルギーなどが不足する可能性
- 知的財産や技術が盗まれる可能性

1-2. 日本外交が直面する主な課題

クイズ：日本はエネルギーを<u>どのくらい輸入に頼っている？</u>



A.

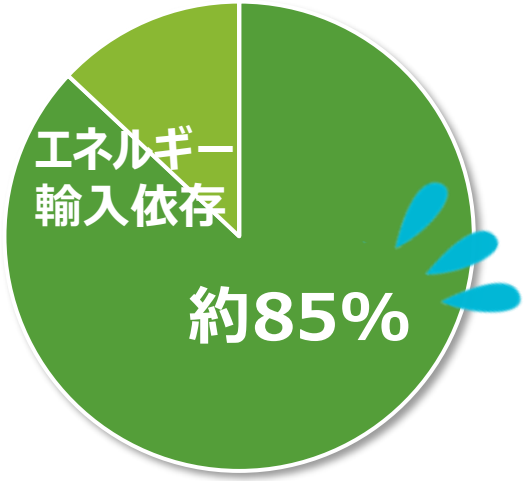
B.

C.

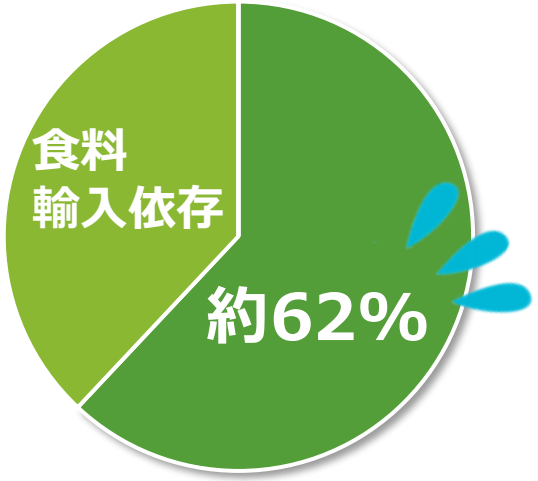
1-2. 日本外交が直面する主な課題

③経済安全保障と科学技術

- **日本は食料やエネルギーの<u>大半を輸入に頼っている</u>！**



令和5年度
出典：資源エネルギー庁
「総合エネルギー統計」



令和5年度
(総合食糧自給率：カロリーベース)
出典：農林水産省

ロシアによるウクライナ侵略など、様々な原因が影響し、あらゆる品物が値上げ

→ **世界の出来事が、国民ひとりひとりの生活にも大きな影響を及ぼす！**

1-2. 日本外交が直面する主な課題

③経済安全保障と科学技術

新しい技術の導入

SNSの発達

デジタル化

情報化

5G

IoT

AI

偽情報の拡散

サイバー攻撃

自由な経済活動や科学技術・イノベーションを活用するために、

適切で公正な管理に向けた協力が不可欠

2. 日本外交の展望

以上の国際情勢を受け、日本はどのような外交を展開するのか

2-1. 日本外交の基本方針

「歴史の転換点」にある国際社会

↓

価値やルールを大切にする国際秩序を守り、強くすることで、

世界を融和と協調へ導く「対話と協調の外交」

具体的な取組

①日米同盟の充実・強化

②自由で開かれたインド太平洋（FOIP）の実現に向けた同盟国・同志国との連携

③グローバル・サウスと連携し、国際社会の秩序の強化をリード

2-2. 日本外交の取組

① 法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守る

② さまざまな地域との外交

③ 文化や人と人の交流の促進

④ 経済外交

⑤ 多国間で取り組む課題

1-2. 日本外交が直面する主要な課題

① これまでの国際秩序に対する挑戦

② 国家間の力のバランスの変化

③ 世界とつながる経済と科学技術

2-2. 日本外交の取組

① 法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守る

既存の国際秩序が重大な挑戦にさらされるなか、平和を守るための手段として**「法の支配」を重視**

法の支配とは？

全ての権力に対する法の優越を認める考え方。国内において公正で公平な社会にとって不可欠な基礎であると同時に、友好で平等な国家間関係から成る国際秩序の基盤となる。

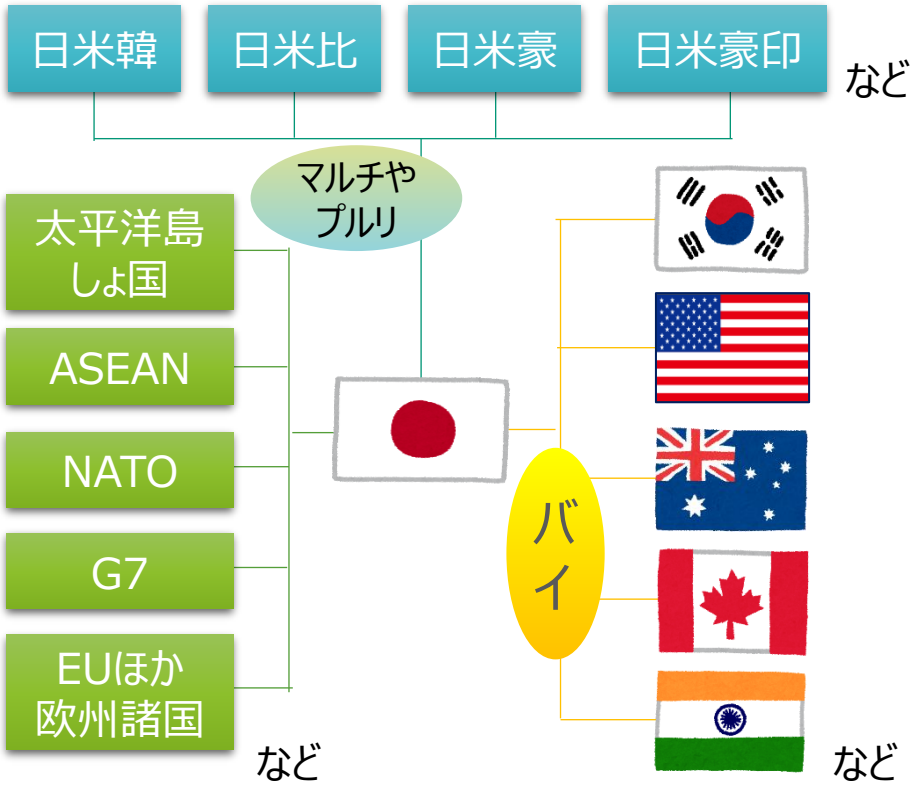
わかりやすく言えば、ルールを守ろう！という国際的な雰囲気をつくること。
例えば「他人のものは取らない」というルールがあって、それを誰かが破ったら
他のみんなも真似をして、力づくの奪い合い状態になりかねない。
ルールを誰も破らないからこそみんな仲良くできる、と言うことができるね。

2-2. 日本外交の取組

① 法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守る

- **日米同盟を一層強化する**
  - アメリカは唯一の日本の同盟国であり、日米同盟は日本の外交・安全保障の基礎。
  - 外交や防衛のみならず、経済等での結びつきを強めていく。

- **アメリカのみならず、「日本と協力できる仲間」との重層的なネットワークを強くしていく。**

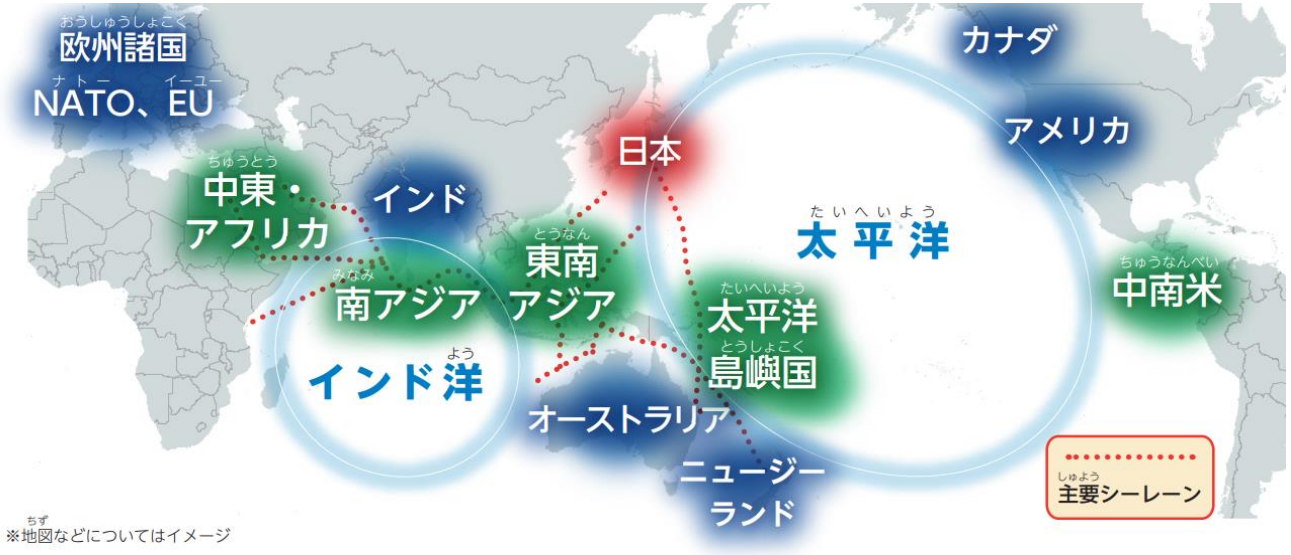


2-2. 日本外交の取組

① 法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守る

「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」

- 成長著しいアジア・潜在力あふれるアフリカの「二つの大陸」と、貿易などに欠かせない「二つの海洋」の交わり
  → 世界の安定と繁栄のカギ！
- 「ルールを守ることの大切さ」などの考え方を共有している国々で力を合わせて地域全体の平和・安全を守る



出典：はじめての防衛白書2024

2-2. 日本外交の取組

写真提供：首相官邸ホームページ

① 法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守る

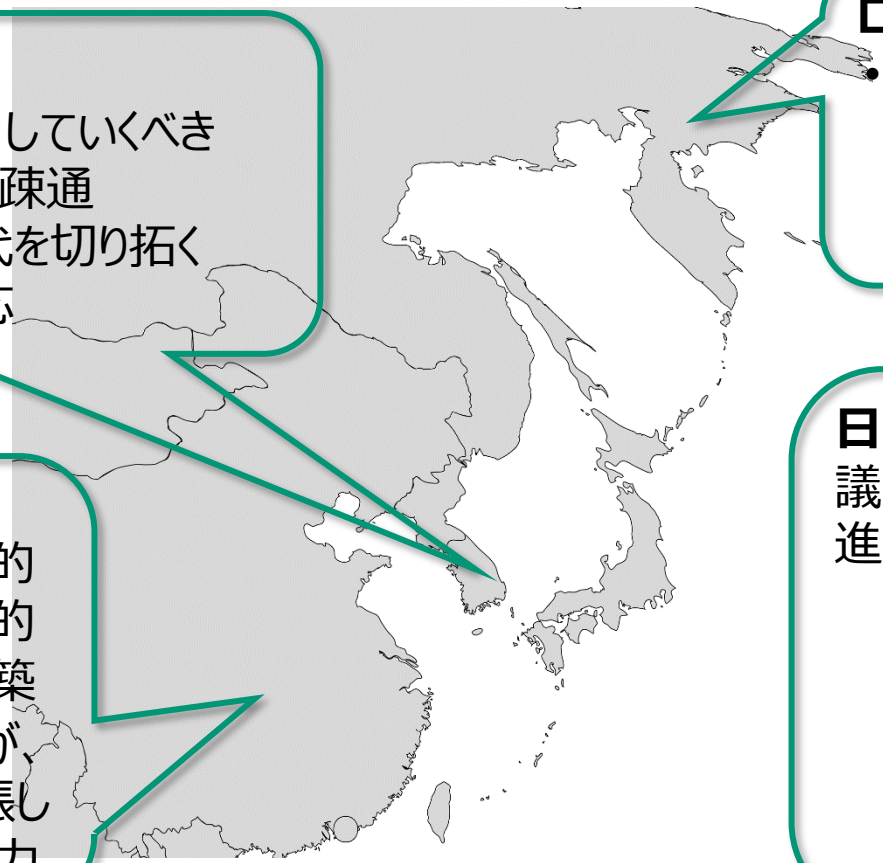
- **日本が自分自身を守る力を強くする**
  - 国家安全保障戦略に沿って、重要な課題・分野において、日本自身の取組やさまざまな国との協力関係を強化
  - 他国の軍などが資機材購入やインフラ整備などを行うための資金を供与するしくみ（OSA：政府安全保障能力強化支援）を実施

OSAが、なぜ国の安全を守ることにつながるの？

日本周辺の安全を脅かす動きが広がる中、日本は自分だけでなく周りの国の防衛力を高めることにも協力する必要があります。OSAによって、他国の軍の能力を強化する協力も可能になったことは、インド・太平洋地域全体の平和を守る力を強めることにつながります。

2-2. 日本外交の取組

② さまざまな地域との外交



韓国：
- 様々な課題の対応に協力していくべき重要な隣国、緊密に意思疎通
- パートナーとして新しい時代を切り拓く
- 竹島については毅然と対応

ロシア：
- 日露関係は厳しい状況にあるが、政府として北方領土問題を解決し、平和条約を締結することを目指す

中国：
- 「戦略的互恵関係」を包括的に推進し「建設的かつ安定的な関係」を双方の努力で構築
- 懸念や課題は数多く存在するが、対話を重ね、主張すべきは主張しつつ、共通の課題においては協力

日中韓：2025年3月に日中韓外相会議開催。未来に向けて実務的な協力を進めていく。

2-2. 日本外交の取組

② さまざまな地域との外交

アフリカ：
人口増加中、これからのダイナミックな成長が期待できる。**アフリカ開発会議(TICAD)**などを通じ、共に課題に取り組む。

中東：
原油輸入の9割を依存、エネルギーの安定確保のためにも極めて重要。**日・アラブ政治対話**や**日・GCC外相会合**で連携強化。

中央アジア・コーカサス：
ロシアによるウクライナ侵略の影響を大きく受けている。**「中央アジア＋日本」対話**などで協力を推進。

太平洋島しょ国：
価値と原則を共有するパートナーとして、戦略的に非常に重要。**太平洋・島サミット(PALM)を**開催。

中南米：
地理的には離れているが、**日本と価値観の近い国々**。世界最大の日系人社会が友好の橋渡し。豊富な資源・エネルギー・食料を日本に輸出するパートナーでもある。

南西アジア：
インドは**FOIP**実現に向けた重要なパートナー。南西アジア各国は伝統的な親日国であり、日本企業にとって魅力的な市場・生産拠点。

東南アジア：
インド太平洋の要であるASEANの安定と繁栄は地域全体にとって重要。**日ASEAN友好協力**は2023年で50周年を迎えた。

2-2. 日本外交の取組

③ 文化や人と人の交流の促進 ➡ 国の枠組みを超えた相互理解を深める！

- **文化外交**
  - 在外公館や国際交流基金による文化事業（伝統文化からポップカルチャーまで）等を通じた日本の魅力発信は、日本への理解を深め、日本の外交をスムーズに進めることにも繋がる。

Japan International MANGA Award 日本国際漫画賞

- **人と人の交流**
  - 留学生交流・・・留学生の受入れ、元留学生との関係強化や活動支援
  - JETプログラム・・・地方自治体などが外国語指導助手などを招へい
  - スポーツ交流・・・外国へのスポーツ器材の輸送支援やスポーツを通じた外交
  - 青少年交流・・・日本とさまざまな国の将来有望な青少年同士の交流

JENESYS KAKEHASHI Project MIRAI Juntos!!

2-2. 日本外交の取組

④ 経済外交

- **ルールに基づく自由で公正な貿易**を維持・拡大する
  - WTO(世界貿易機関)を中核とする多角的貿易体制を維持・強化する

WTOとは、各国が自由にモノ・サービスなどの貿易ができるよう、加盟国間の①ルール作り、②紛争解決、③ルール遵守の監視を行っている国際機関のこと。

- **「経済安全保障」への対応**
  - 他の国々と協力して経済分野の取組を通じて、日本の平和と安全や経済的な繁栄を確保する。

経済分野の取組

重要な物資の
安定供給の確保

重要な技術の
保護・促進

ルールに基づく
経済秩序を推進

2-2. 日本外交の取組

④ 経済外交

- 新興国・開発途上国（グローバル・サウス）の成長を日本にも取り込む
  → **国・地域ごとのきめ細かで戦略的な経済外交**
- 現地に駐在する**経済広域担当官**や**日本企業支援担当官**等を活用し、日本企業の海外展開や日本産食品の輸出拡大に貢献
- 相手国にとって魅力的な支援を提案する**「オファー型協力」**や、民間企業などとの連携を通じてより良い開発協力・ODAを実施

日本文化や科学技術などのソフトパワーも積極的に活用！

OSAKA, KANSAI, JAPAN EXPO 2025

EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN

ODA（政府開発援助）とは？

政府が行う国際協力活動のうち、開発途上国の経済や福祉の発展を助けるために行うもの。

豊かな国が貧しい国を助けるという理由だけでなく、日本の食料やエネルギーの安定的な確保、日本の企業が海外でビジネスをしやすくなるなどのメリットもある。

2-2. 日本外交の取組

⑤ 多国間で取り組む課題

- 安保理改革を含む国連の機能強化に取り組む
- 深刻な人権侵害に対してはっきりと声を上げ、各国の取組を後押しし、日本らしい人権外交を進めていく
- 女性・平和・安全保障（WPS）の取組として、女性参画に根ざした外交を推進
- 2025年は広島・長崎への原爆投下から80年の節目の年でもあり、「核兵器のない世界」の実現に向けた取組を行う

2-2. 日本外交の取組

⑤ 多国間で取り組む課題

- 人間の安全保障の理念の下、一丸となって人類共通の地球規模課題に取り組んでいく

気候変動・環境

食料

防災

テロ・国際組織犯罪

国際保健

「人間の安全保障」とは？

人間の一人ひとりに着目し、人々が恐怖や欠乏から免れ、尊厳を持って生きることができるよう、個人の保護と能力強化を通じて国・社会づくりを進めるという考え方。

まとめ

まとめ

- 今、国際社会は**歴史の転換点**にある
  - ロシアによるウクライナ侵略、中東情勢をめぐる複雑な対立、新興国・開発途上国の台頭、地球規模課題の深刻化など
- そのなかで、平和国家として築いた信頼を土台に、分断や対立から、**融和と協調へと世界を導く外交**を行っていく